

カサブランカの育て方

◆ 植付け時期

10月（球根購入後できるだけ早く）

2年目以降は、地上部が枯れる2月ごろに植え替え

◆ 開花時期

7月上旬～中旬

◆ 植付け方

下図を参考にしてください。

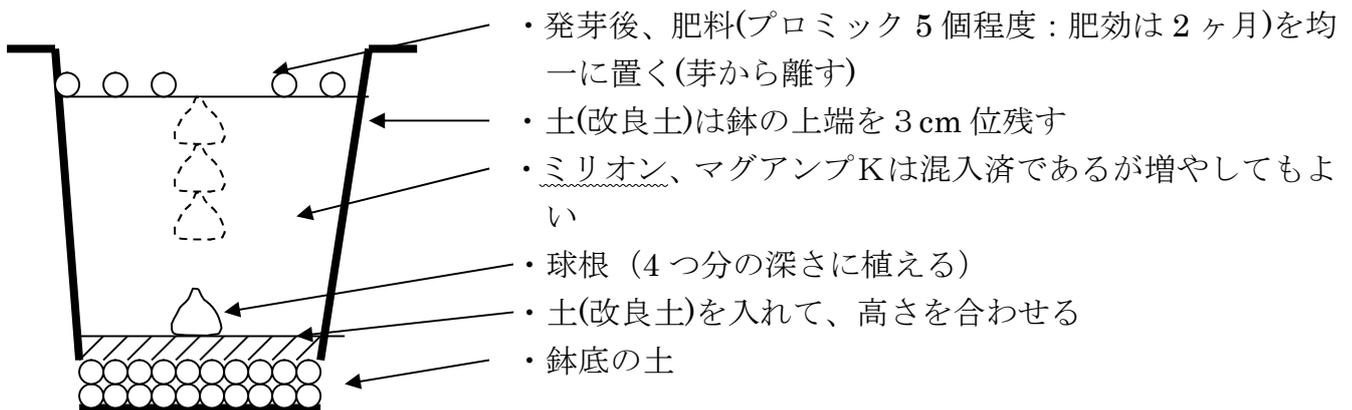
① 鉢の底に鉢底の土を入れ、その上に培養土を少し入れる。

② 球根を中心に置き、高さを調整しながら培養土を入れる。マグアンプ(N:P:K:Mg=6:40:6:15)やミリオン(珪酸塩白土)は、培養土に混入済みであるが、さらに増やしてもよい。

③ 培養土は鉢の上端3cm位を残すように入れる。(培養土が少なかったら、市販の花と野菜の土等の用土を追加してください)

④ カサブランカの生育は、上根(球根より上に出る根)により左右されます。植え付け時の下根の量で、成長量に差はありません。

注意) 球根が動かないよう、球根周りを閉め固めながら土を入れる。



注意 球根は手袋を使って扱う。タバコを吸う人は特に注意→病気に掛かりやすい(ウイルス病) 乾燥させないよう注意する

◆ 管理上の注意

〔置き場所〕

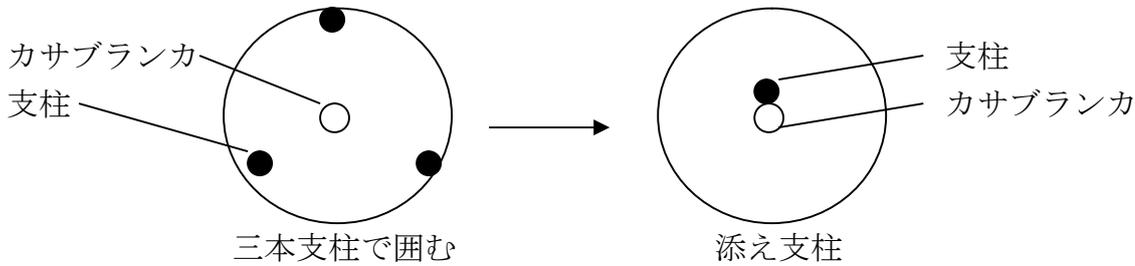
鉢底から根が出ないように、鉢を直接土の上に置かない。冬期は乾燥防止で土に埋めてもよいが、鉢底から根が出て切らないように注意

東南方向が開けているような場所に置く。西日が当たるような場所は避ける。(朝日があたり、夕方、日が当たらない場所が適地)。雨は当たってもよいが、大雨時は当たらない方がよい。

定期的に鉢を回転させる、均一に成長させることができる

〔支柱〕

球根を傷めないように、早めに立てる。最初は、三本支柱をビニタイで囲み、苗を守る。コンクールに出品するなら、添え支柱にすると支柱が目立たない。支柱を挿す時に球根や根を傷めないよう気をつける。結束は8の字で結ぶと茎が傷まない。



〔水やり〕

土の表面が、白っぽく乾き始めたら水やりをする。夏場は乾く前に与える。ユリの球根は乾燥に弱く、冬場も乾かさないように水やりが必要ですが、与えすぎない。冬は凍結に注意。夏は、朝行くと昼の高温で煮える恐れがあるため、夕方に水やりを行ってもよい。受け皿に水をためないようにする。乾燥防止で表面にバーク等を敷いてもよい。鹿沼土・水苔はNG。

〔肥料〕

- ・配布肥料（マグアンプ）はすでに配布する土の中に配合してあるので、よく混ぜ合わせる。ミリオン（珪酸塩白土）は水腐れを防ぎ、花を大きくする効果がある。転作障害にも効果がある。
- ・プロミック（肥効2ヶ月）は、芽が出たら球根から離して、5個程度土の上に置く。2ヵ月後、再度、施肥する。肥料が多すぎると、葉が垂れる。
- ・2月上旬から水やり時に液肥として、ハイポネックス（青-6:10:5）の2,000倍液を10日に1回：月3回程度を施用し、3月中旬ぐらいから1,000倍液を施用する。発芽後は、10日に1回程度液体肥料（ハイポネックス青）の1,000倍液を与える。花が終わっても、12月まで施用する。

〔防除〕

- ・虫が発生した場合は、サンヨールを散布する。サンヨールは、殺虫の他、なめくじや殺菌にも効果がある薬。霧のように吹き付けて流れない程度にかける。
- ・春にアブラムシがつきやすい。虫を確認したら、殺虫剤（マラソン乳剤等）を霧吹きで葉裏から30cm離して散布する。散布は、夕方か曇の日に行う（朝：夜露で薄まる、昼：葉焼けする）。スプレー型のモスピランも良い。カメムシはベジタメートALが効く。
- ・ウイルス病が見られたら、他のカサブランカに移らないよう処分する。

〔花がら摘み〕

- ・花が咲き終わったらすぐに摘み取り、次の花の成長を妨げないようにする。最後の花が終わったら、一番下の花のすぐ下で摘み取り、全ての葉を残して次年度に向けて育てる。
- ・お礼肥として、洋ランの固形肥料：レバープランツ（5.5:7:6）を1ヶ月に10個、12月までやると次年度は大きく咲く。化成肥料はさけて、8:8:8や鶏糞は与えない。

〔植え替え〕

- ・鉢植えの場合は毎年、庭植えの場合は3年に1度くらい、時期は落葉後すぐに掘り上げて、その日のうちに植える。庭植えの場合は連作を嫌うので別の場所に植える。掘り上げる際は、根を痛めないように注意する。2月が適期。連作時は、ミリオンを混ぜると良い。

〔球根の掘り上げ〕

球根は乾燥に弱いので、乾燥保存はしません。保存する時は、ビニール袋に通気のための小さな穴を開け、中に軽く濡らしたバーミキュライトなどを入れて、涼しい日陰で保管します。